



## HCFニュース

北海道自転車競技連盟 総務委員会  
札幌市中央区北4条西6丁目1-3  
ツールド北海道内 札幌自転車競技連盟(内)  
発行人 菊地 ひずる  
tel 011-251-1187 fax 011-232-4604  
E-mail: scf-2@sapporo-cf.jp

10月30日に行われた第4回北海道シクロクロス選手権大会(長沼町)、第1回北海道秋季トラック競技記録会(函館市)で、今年度の当連盟の大会が終了いたしました。

事務局は今年度のまとめと来年度に向けての準備活動に入ります。

尚、来年度はオリンピックのためJCFの大会が例年開催時期とずれることが予想されますので、当連盟の大会日程もずれることとなると考えられます。

今年度より各大会画像が <http://www.youtube.com/user/SapporoCF> でご覧になることができるようになりました。(写真希望者はビデオの終わりに申し込み方法があります。)

- ◎ 第4回北海道シクロクロス選手権大会の結果が出ています
- ◎ 第1回北海道秋季トラック競技記録会の結果が出ています
- ◎ 10月22日栃木県宇都宮でのジャパンカップ サイクルロードレース・オープン男子の部で小橋勇利君(現愛媛車連登録)が優勝、山川惇太郎選手が36位、西尾勇人選手が59位となり、オープン女子では米田和美選手が11位となりました。
- ◎ 10月30日三重県四日市で開催された第7回全国ジュニア自転車競技大会、小学3・4年生男子9.2kmで中谷研斗君が17位、小学5・6年生男子18.2kmで中谷亮太君が9位となりました。
- ◎ 2011年度の年間ポイント集計ができました。来年度に向けて昇格・降格の発表は後日となります。
- ◎ スポーツ安全保険の料金が来年度改定されます。

## 秋季トラック記録会レポート

10月30日、第一回目の「北海道秋季トラック記録会」が函館競輪場で開催されました。

目的は来シーズンの強化選手選考と、少しでも多くの選手にバンクとトラック競技に慣れ、なおかつ競技力のアップを目指すことを目的に実施するもので、種目は200mフライング、3千個人追抜競争、ポイントレースの3種目、エントリーはジュニア9名、成年5名、女子1名が、また、ロンドンパラリンピックを目指す1名が1000mTTと3千個人追抜競争に挑戦しました。

この記録会の形式は、全ての種目についてタイム測定し、種目別の適応性を判断するもので、好

タイムが出ずらいと言われている函館バンクで、しかも得意・不得意にかかわらず全種目を全力で走りきらな

ければならないため、参加者にとっては厳しい記録会になることが予想されました。ロンドンオリンピックから採用される新種目の「オムニアム」のミニ版と言ったところでしょうか。

最初の200mフライングは、スプリントなど短距離系の適正を計るもので、ボーダーラインは12"が目安となります。

11"台は国体参加の、ジュニアは斉藤選手が11"95と成年の田原選手11"97で2名、12"台は函館の新田選手の12"10のみ、他は13"~14"台、女子の池田選手が15"台といずれも平凡なタイムに終わりました。

パラリンピックを目指し1000mTTと3千個人追抜競争に挑戦した田中選手は片足での走行で1000mを1'37"11、個人追抜を5'17"00の好タイムで、健常者を上回るほどの結果でした。

疲労回復時間後の3千個人追抜競争、中距離系種目でボーダーラインは4'、この種目の一番時計は、国体ジュニアの4千速度競争に出場の伊藤選手で4'2"10で、残念ながら3'台には届きませんでした。4'6"65は藤原選手、4'7"02が国体出場の永田選手で、他は4'台の中盤から後半と言う結果に終わりました。

この中で、短距離系の斉藤選手が4'14"20、田原選手が4'13"28と中長距離系選手を上回る結果となりました。

参考までに、秋田国体に出場した際の、現在シマノ所属の阿部嵩之選手は、秋田合宿で測定した時のタイムが3' 56"、鹿屋体育大学の高宮正嗣選手は3' 54"でした。

最後のポイントレースは、ジュニア、成年のクラス分けごとでは競技にならないため、参加者全員で16km40周回にショートカットし、それぞれクラスごとに着順をつける方式で実施することになりました。

競技展開は予想通り、2周回目から集団はバラバラとなり、40周回を走りきったのは5名の選手だけと言う結果となり、上位は1位が伊藤選手、2位が藤原選手、3位は田原選手でした。又尚志学園の渡邊選手がラップされることなく完走し、なおかつポイントを取った点はこの記録会の収穫ではないかと思ったところです。

全ての競技が終了し、時間に余裕があったので、6名の希望者を対象に1000TTを測定しましたが、前戦の疲れが影響し、タイムは公表を控えることにしました。

今回の記録会は参加者が少なく、低調な記録会となりましたが、次回は、将来の選手発掘のため

に中学生を対象にロードでの参加を可とし、高体連選抜大会の選考大会を兼ねるなど、門戸を広げて実施できたらと思うところです。

また、このように競輪場を快く開放していただいた競輪選手会をはじめ関係団体各位にお礼と感謝を申し上げます。

強化副委員長 古館 一也